



令和7年度

会津若松市
男女平等に関する
作文コンクール

入選作品集

会津若松市

令和8年1月発行

令和7年度 会津若松市「男女平等に関する作文コンクール」の審査総評

審査委員長 会津若松市男女共同参画審議会

会長 木村 淳也

会津若松市は、2000年（平成12年）に県内で初めて「男女共同参画都市」を宣言しました。2003年（平成15）年には「会津若松市男女共同参画推進条例」を施行して「男だから」「女だから」といった固定的な考えにとらわれず、誰もが自分らしく生きられる社会を目指して歩みを進けてきました。

男女平等に関する作文コンクールは、こうした本市の歩みを踏まえつつ、「男女共同参画社会」の実現に向けて策定された第6次会津若松市男女共同参画推進プランの理念のもと、次代を担う子どもたちが身近な生活の中から男女平等について考える機会の一つとして実施しています。

今年度の作文コンクールには、合計で215作品もの応募がありました。応募された作品はいずれも、日々の暮らしで感じた疑問や気づきを出発点に、「誰もが暮らしやすい社会」について丁寧なまとめられた素晴らしい作品ばかりでした。すべての作品に対する厳正な審査の結果、最優秀賞4作品（小学生低学年1作品、小学生高学年1作品、中学生2作品）、優秀賞8作品（小学生低学年2作品、小学生高学年2作品、中学生4作品）が選ばれました。

作品の内容は、家事や育児の分担、何気なく使っている「男らしさ」「女らしさ」という言葉への違和感、仕事に関することなど多岐にわたります。また、一人ひとりの個性や多様な生き方への理解に関する作品、自分自身の体験や周囲の人との関わりを通して考察した作品も多く見受けられました。審査を通して、年齢や性別にかかわらず互いを尊重しようとする意識が、子どもたちの心の中に着実に育っていることを強く実感いたしました。

応募してくださった皆さんには、ぜひこの作文コンクールで考えたことや感じたことをこれからも大切にしながら、誰もが安心して暮らし、自分らしく生きることのできる社会の実現に向けて、それぞれの立場でできることに少しずつ取り組んでいくことを願っています。

令和7年度 会津若松市「男女平等に関する作文コンクール」の審査総評

審査委員長 会津若松市男女共同参画審議会 会長 木村 淳也

●小学生低学年の部

最優秀賞	わたしの考える男女平どう	日新小学校	三年	星 つむぎ	さん	1
優秀賞	こうあるべきがなくなつてほしい	日新小学校	三年	飯塚 陽葵	さん	2
優秀賞	男も女も関係ないよ	行仁小学校	三年	伊藤 碧人	さん	3

●小学生高学年の部

最優秀賞	男女平等について	門田小学校	四年	奥 悠	さん	5
優秀賞	男の子も女の子もみんな大切	松長小学校	四年	神山 湊月	さん	6
優秀賞	平等ってなんだろう	小金井小学校	四年	熊谷 由衣	さん	8

●中学生の部

最優秀賞	男女平等について考える	第三中学校	一年	廣瀬 世奈	さん	10
最優秀賞	自分らしく	第二中学校	一年	梁取 樹理	さん	12
優秀賞	「男女平等」とは	第四中学校	一年	菊地 和奏	さん	13
優秀賞	その言葉の本当の意味は	第一中学校	三年	二宮 愛莉	さん	15
優秀賞	違いを受け入れる	第五中学校	三年	濱津 陽南	さん	16
優秀賞	過去からの解放そして未来へ	第四中学校	三年	半沢 悠乃	さん	18

※同賞については氏名五十音順です。
※公表の承諾を得た作品を掲載しています。

優賞
最秀

わたしの考える男女平どう

日新小学校 三年 星 つむぎ

わたしは今まで男女平どうについて考えたことがありませんでした。なぜなら、学校などで男だから、女だからという理由でいやなけいけんをしたことがないからです。今回、男女平どうについて家ごとと話しました。その話の中で、国や時だいによって、女の子は学校に行くことができなかつたということを知りました。ほかにもできる仕事に分けられていたり、ランドセルの色が決まっていたことを知りました。

色々な話の中で、私が一番いやだと思ったのは、女の子だからという理由で学校に行けないことがあるということ。学校に行けなかつたら、友だちができなかつたり、勉強ができません。勉強ができないとしよう来やりたいたいことができなくなると思いますが、昔、学校に行けなかつた女の子たちは、やり

たいことやできることが少なかつたと思います。それに自分のやりたいたいことができなくて、がまんしていた人もいたと思います。わたしはしよう来、小学校の先生になりたいと思つています。もし学校に行けなかつたら、先生という仕事も知らなかつたし、先生になるしかくもとれません。でもわたしは学校に行けるのでじぶんのゆめにむかつて、一生けんめいがんばりたいです。そして、世界にはまだ学校に行けない女の子がたくさんいるのでみんな早く学校に行けるようになると思います。

わたしの思う男女平どうは、男の子だから、女の子だからと決めつけず、自分のやってみたいことにしようせんできることだと思ひます。でも、気づかないうちに男の子だから女の子だからとやることをわけていることがあると思ひます。とくに、大人に言われるとやりたいたいと思つたことをやめてしまふかもしれない。なので、男の子、女の子だからと決めつけないで、わたしたちのやりたいたいことをおうえ

んしてほしいと思います。そうすれば、わたしたちが大人になった時に、男だから女だからという理由でやりたいことをあきらめないと思います。男でも女でも、子どもでも大人でもやりたいことにチャレンジできるようになればいいと思います。

これからの生活で、男だから女だからという言葉が言われたり、聞いたりしたら、わたしの考えを話してみようと思います。

優秀賞

こうあるべきがなくなってほしい

日新小学校 三年 飯塚 陽葵

私は女の子ですが、男の子が好む服そうや物が好きです。

この前買い物に行った時、わたしはきょうりゅうのがらの服がほしいと思い、母に言いました。すると母から、

「きょうりゅうなんて男の子みたいな服はだめ。」と、言われました。私は、なんでだめなんだろうと思いました。

女の子がきょうりゅうの服を着ていても何もおかしいとは思いません。着たい服を着ればいいと思います。

他にも、前に母が、「女の子もせい服でズボンをはけるようになったんだ。」

と、言っていました。母が子どもころのせい服は、男の子はズボン、女の子はスカートときまっていた

そうです。また、ランドセルは男の子は黒、女の子は赤で、今みたいいろいろな色からえらぶことはできなかつたそうです。私はそれを聞いて、お母さんは昔、かわいそうだったんだなと思いました。

このように、今は昔とくらべて自由にえらべるようになってきました。しかし、まだ男の子や女の子はこうあるべき、と考える人もいます。

私は、そういう考え方がなくなり、その人が自由にえらぶことができ、それをひていされない世界になつてほしいと思います。



男も女も関係ないよ

行仁小学校 三年 伊藤 碧人

「女の子みたい。」

これは、ぼくが同じ小学校の男の子に言われた言葉です。

ぼくは、かみの毛の後ろのところを長くのぼしていました。自分がいいと思つたし、好きなかみがたつたからがんばつてのぼしていました。だけど「女の子みたい。」と言われて、急にはずかしくなりました。

「女の子みたいじゃないよ。」

と言ひ返したけど、心の中でははずかしかったです。家に帰つて、お母さんに今日のことを話しました。そして、

「おれ、後ろのかみの毛切る。」

と言ひました。お母さんは

「せっかくのぼしたのに切っちゃうの。」

と言いました。そしてお母さんはぼくに色んなことを教えてくれました。お母さんが子どもの時には、ランドセルも習字のかばんも男の子は黒で女の子は赤だったそうです。今は色んなしゅるいがあるけど昔はなかったそうです。お母さんは赤よりも黒が好きでかきだっただし、スカートがきらいでズボンが好きでかみの毛の短い小学生だったんだよと教えてくれました。人に何かを言われても、自分がいいと思うならかえるひつようないんだよと話してくれたけど、ぼくはどうしてもはずかしかつたのでけつきよくかみの毛を切りました。

男女平等の意味を調べてみたら、男でも女でもさべつがなくみんなが同じであることと書いてありました。今はジェンダー平等という言葉もあるみたいです。テレビをみていたら、せんきよに出る人には男の人も女の人もいました。病院のかんごしさんには男の人もいました。ぼくのいとこのお兄ちゃんは、赤ちゃんが生まれて育児休業を取っていました。男

だからとか女だからとか関係なく、自分のやりたいことをやっていいんだなあと思いました。はずかしそうな人なんていないんだなあと思いました。

ぼくははずかしいからといってすぐにかみの毛を切ってしまったけど、べつに切らなくても良かったなあとは思いますが、理由は、かみがたはその人の自由だと思ったからです。かみがただけじゃなくて、人の好きなことにたいして、それいいねと思える大人になりたいと思います。

優賞
最秀

男女平等について

門田小学校 四年 奥 悠

「どうして女ばかり…」

ぼくは、生活している中で、こんな風に思うことがあります。はつきり言って女子ばかりとくべつあつかいされて、ずるいと思います。

一つ目は、習いごとのスイミングの時です。ぼくは、スイミングに行くと、いつもぎもんに思うことがあります。それは、こういう室のカーテンが、女子はかならず下ろされて、見えないようにしてもらえないのに、男子には何もされないことです。

理由は、ぼくにもわかりません。女子の方が見えてはいけない部分が多いからだと思います。でも、男子にだって、見えてはいけない部分はあるし、かくしてほしい気持ちがあります。女子ばかり気にしてもらって、男子はどうでもいいと思われているような気持ちになります。

二つ目は、学校での出来ごとです。男子と女子で、同じ悪いことをしても、男子のほうがきびしく怒られます。女子はさらっと言われて終わりです。そんな時ぼくは、男子はそんな感じでばかりだなと思います。どうして大人は、男女で差をつけるんだろう。

ぼくが思うには、女子は怒ったらかわいそうと思われているからかなと思います。でも悪いことをしているのに、それはおかしいとぼくは思います。そんなことが続くと、男のぼくたちの中にモヤモヤがたまってきたり、女子にいやな気持ちばかりあふれてきます。男子も女子もお互い気持ちよくすごせるように、大人には、怒るときもほめるときも、男女関係なくせつしてほしいです。

ぼくは、学校の休み時間に遊ぶとき、男の友達と、校庭でドッチボールをして遊ぶことが多いです。でも、教室で絵をかくてすごすこともあります。その日の気分で、自分のしたいことを、したい人同士で

集まって遊んでいます。それには、男も女も関係ありません。

また、ぼくのたんにんの先生は、休み時間に鬼ごっこをするとき、男子にも女子にも声をかけて、みんなで鬼ごっこをしようとしてくれます。これが楽しくて、クラスのみんなの仲が深まります。

男子と女子は、体がちがうので、同じにできない事もあります。でも、ひとりの人間として、考えることは同じだし、大切にされたいという気持ちも同じです。男だから、女だからという前に、自分もまわりの人も、同じ人として大切にし、思いを伝え合う事が大事だと思います。そして、みんながお互いを大切にして、仲良くくらせる世の中になってほしいと思います。

優秀賞

男の子も女の子もみんな大切

松長小学校 四年 神山 湊月

わたしは、男の子も女の子もどちらも大切で、同じようにできることがたくさんあると思います。でも、日本はまだ男の子と女の子でちがうあつかいをされることがあります。それは、おかしいし、ふしぎなことだと思います。

たとえば、学校の体育でドッジボールをすると、男の子を前にして女の子の友達は、

「男の子なんだから前に行ってよね。」

と言っていてわたしはびっくりしました。なぜなら、女の子の中にも足が速い子や、なげるのが上手な子がいます。わたしの友達はいつもリレーで一番です。なのでわたしは、いつも「男の子だから」「女の子だから」というだけで、ちがうふうに見られるのはへんだと思います。

また、前に友達とテレビを見ていた時にメイクをした男の人がいました。その人はアイドルで歌を歌ったおどったりしていて友達が

「なんで男の人がメイクしているの。」

と聞かれたことがあります。わたしは、それについてメイクは女の人を使うせんにつくられたものではないと思いました。「男の人も女の人も美しくなりたいからメイクをしているのではないのかな」と思いました。男の人がメイクをすることはわたしはさんせいです。でも、わたしのように考えない人もいると思うので男の人は女の人よりも自由が少ないのではないのかなと思います。

五才のころわたしが通っていたほいくえんで仲良い男子がわたしの友達でプリキュアが好きでリュックにプリキュアのキーホルダーを三つくらいつけてほいくえんに来ました。そしたら友達の子のおとも達が男の子に

「なんで男の子なのにプリキュア好きなの、しかもなんで男の子なのにピンクが好きなの、男の子なのにね、なんでだろうね」

これを言われた時男の子はへこんでいました。なので自分はそれがへんだと思いい友達に

「男の子だからという言葉はよくないんじゃない、男の子でもプリキュアが好きの子もいるし女の子もプリキュアが好きの子もいるだろうし女の子でも青が好きの子もいるしそうゆうきめつけはよくないんじゃないかな。」

と言うと男の子もうれしそうにしていました。べつに男の子も女の子もどれを好きになってもいいと思います。みんなで使うと好きという気持ち広がるし、女の子も男の子もなかよくなれるのではないのかなと思いました。自分とはちがう考えをもつ人を見とめ合い、ささえ合うことでよりよい社会をつくることのできるのではないのかなと思いました。異なる

せいべつの立場を立って物事を考えてみることで新しい気づきがあるのかもしれないと思いました。

男の子も女の子も平等にすることで自由が多くなり楽しみがふえて良い社会になると思います。自分も男女平等だと思っています。

優秀賞

平等ってなんだろう

小金井小学校 四年 熊谷 由衣

わたしは作文を書く事になり、男女平等という言葉を知りました。色々調べていくうちに、男女平等とは同じように大切にされ、同じようにチャンスがあることだという事がわかりました。はじめはそんなの当たり前じゃないかと思いました。なぜなら男の子も女の子も、学校では同じように勉強しているし、同じように習い事やスポーツもしているからです。わたしの家ではお母さんもお父さんも働いています。お母さんの方が早く仕事から早く帰ってきて、わたし達のお世話をしてくれます。お父さんは帰ってくるのがおそいですが、朝ごはんを作ってから仕事にいきます。お父さんもお母さんもおたがいに出来ることを考えて役わりをこなしています。それが当たり前前に思っていました。

しかし、お母さんから聞いた話によると、昔女の人は学校に行けなかった時代もあったし、仕事のえらい人は男の人ばかりだったのだよと教えてくれました。そんな時代があったなんて知らなかったのでびっくりしました。たしかにニュースを見ても、せいじ家や社長にまだ男の人が多いように感じます。しかし女の人も同じように頭がよく、考える力や行動力がある人もいます。もし男の人ばかりがえらい立場につくと、考え方が一方にかたよってしまうかもしれません。家の中でも同じです。昔は家事は女、仕事は男がするものだと言われていたそうです。でも、家事が得意な男の人も、働くのが好きな女の人もあります。男だから、女だからでは分けられません。それならみんな同じ事やあつかいをすればいいのでしょうか。いや、男女平等とはどちらも同じことをしなくてはならないという意味ではないと思います。男の人と女の人には体のちがいやとく意なこと、ちがいもあるかもしれません。でも、そのちがいを理

由にふこうへいにあつかうのではなく、ちがいをみとめ合い、同じようにそんちようされることが本当の男女平等なのだと思います。たとえば、せが高い人もひくい人も、みんながとくように台をおくのが平等だと思います。それぞれの人に合ったやり方で、同じスタートラインに立てることが大事なんだと感じました。

しょう来、わたしが大人になったとき、男だから、女だからと決めつけられる社会でなく、その人らしさを大切にできる社会になってほしいです。そしてわたし自身も、相手のせいべつではんだんせず、その人の良さや努力をしっかりと見つけられる人になります。男女平等は、みんな自分らしく生きられるための大事な約そくなんだと思いました。そして、だれもがやりたいことにチャレンジできる世界になってほしいです。

優賞
最秀

男女平等について考える

第三中学校 一年 廣瀬 世奈

私は恵まれているな。男女平等について考えたとき、私はまず、そう思いました。

私は家族の口から、男女を区別する発言を聞いたことがありません。そして小学校の時も男女全員が仲良しだったので、不平等を感じたことがなかったのです。しかし、中学校に入学し、生徒数が三倍になると、私の考えに変化が生じ始めました。

ある日、男子が泣きながら教室に入ってきました。友達とぶつかったことが原因でけんかになり、泣いてしまったらしいのです。すると、一人の女子がこう言いました。

「男のくせに泣いてやんの。」

私はその女子の顔を二度見しました。「男のくせに」という言葉がひっかかったからです。今どき、そんなこと言う人がいるんだ、と驚きました。以前、テ

レビドラマで「女だからって泣いて許されると思うなよ」というセリフを聞いたことがあります。その時と同じように嫌な気持ちになりました。「男のくせに」や「女だからって」と、泣くことに対して男女の区別があるのは、変だと思います。小学校の時は、誰もそんなことは言わなかったので、私には無い考え方だと思いました。

私の通う学校にはメイクをしている男性の先生がいます。私は、

「男の人でメイクって珍しいですよね。」

と言いました。すると先生は、

「そんなことないよ。美大の男の人はみんなメイクをしているよ。」

と言いました。私の中にメイクは女性がするものという決めつけがあったことに気がつきました。私は最初、男女の不平等について考えたことがないと思っていたけれど、気づかないうちに男と女を分けて

考えていたのです。学校での出来事とその時の私の気持ちをもに話すと、

「それは、アンコンシャス・バイアス。無意識の偏見というものだよ。」

と教えてくれました。意味をインターネットで調べると「誰もが持っている、自分では気づきにくい偏ったものの見方や考え方」とありました。まさしくその通りだと思いました。そこには、偏見は過去の経験から生まれるとも書かれていました。

私はまだ十三歳です。男が泣くのはオーケーで、男性がメイクするのは珍しい。でも近所のお店のお兄さんの長髪はかっこいいと思う。これは十三年間の経験から生まれた考え方です。私はこれからも、見聞きしてきたもので自分の考えを作っていくでしょう。だけど無意識の偏見で誰かが傷ついたりするのは嫌です。だから私は、無意識なことを意識して考えられる人になりたい。それが偏見だと気づける

人でありたい。そして、男とか女とかじゃなく、みんなが心地よく生活できる世界にしたいです。

優賞
最秀

自分らしく

第二中学校 一年 梁取 樹理

私が小学一年生だった時にある一人の男の子が、自己しよう介の時に「好きな色はピンクです。」と言いました。その時、まわりは「へんなのー」と言う子や、「男なのにー」という子がほとんどでした。友達も、私に「へんだねー」と同感を求めました。私はとっさに、「うん」と言ってしまうました。その時、先生は「男の子でピンクが好きではダメなのですか？誰が決めたのですか？そんなものにとらわれるより、自分の好きをすなおに言えた方が、カッコいいですよ」と言いました。私はその時、とてもはずかしかったです。「うん」というたったの二文字で、わたしはその子の「好き」を否定してしまいました。その子かもし否定されたせいで、自分の「好き」をふせぎこむ様になってしまっても、私には責任はとれないのに：と考えていました。子どもながらの無知さとはいえ、今思えば無神経な事をしてし

まったなと思います。その後もずっとその子とは同じクラスでしたが、4年生ぐらいの時、その子の好きな言葉がみんなちがつてみんないい、だと言っていました。やっぱり少しひきずつてる部分はあるのかな：と思いましたが、その時は、それ以上にその言葉が気になり、私は一度、「みんなちがつてみんないい」という言葉についての作文を書きました。それ以来私は「みんなちがつてみんないい」という言葉が好きになりました。こんな私でも認められた気がしたからです。当時の私は周りより劣っているように感じていたので、一人一人それぞれちがつているのは当たり前だし、そういう部分もあって良い、といわれた気がしたからです。そして、それと同じように、男の人でも、女の人でも、それぞれに見合った物が好きではなくっても、きつと自分らしく生きる事が一番大切で、現代社会が作った女らしく、男らしく、という都合の良いレッテルにとらわれずに生きるべきだと伝えたかったのかなと私は考えま

した。あの日の私の言ったことはなくなるとも、そのけいけんがあったからこそ、こんな風な考えが生まれ、多様性についても考えられるようになった気がします。そして私は「みんなちがってみんない」という言葉が単なる綺麗事としてあつかわれず、一人一人が尊重され、互いに認め合える社会になってほしいなと思います。そして私自身も、今までの事をわすれずに、自分も他の人にも、個性があり、感情があり、かけがえのない存在だとむねにとどめて生きていきたいです。



「男女平等」とは

第四中学校 一年 菊地 和奏

みなさんは「男女平等」と言う言葉を聞いてどんなことをイメージしますか。私は今まで特に何とも感じたことも考えたこともありませんでした。

私は父と母と姉の四人で暮らしています。両親は共働きで、朝ご飯やお弁当は父が、夜ご飯は母が作ってくれています。父は朝型タイプで、休みの日は朝早く起きて洗濯と乾燥などしています。昔、料理の仕事をしていたこともあり、料理が得意で休みの日は夜ご飯も作ってくれています。ゴミ出しや洗い物もしています。母はパソコンや機械などが得意で、配線とか設定などは母が全部してくれます。家具の組み立てなども好きで、本棚やカラーボックスなどは母が作っています。トイレのレバーが壊れた時に母は、ホームセンターで部品を買ってきて自分で直していました。父はとても力が強くて、母は体

力がないので、買い物に行くとき荷物は全部父が持つてくれています。

以前、テレビのハードディスクが壊れたことがあり、皆で買い物に行き、家に帰ったのがお昼になったため、父がお昼ご飯を作り、母がハードディスクの取り付けをしていました。父と母は何も言わずに自然と自分の仕事を分担して行っていました。ふと母が、

「これって普通は反対なんだろうね。」と笑っていました。

私の両親は、男だから女だからではなく、自分の出来ることと出来ないことを協力して補いながら家のことを行っています。「共働きだから出来る人が出来ることをするんだ」と良く父は言っています。だから、母が言った普通は私にとっては普通ではなく、私の家族が普通だと思います。

「男女平等」とは、男だから女だからという固定観念を払拭し、個性を尊重して大切にすることで実

現するのではないかと思います。私の両親のように、男だから女だからではなく、出来る人が出来ることをして、出来ないことは助けてもらいながら皆で協力できる社会づくりが出来れば、母の言った普通が普通でない社会、性別を理由に差別されることのない社会づくりが出来るのではないかなと思います。

優秀賞

その言葉の本当の意味は

第一中学校 三年 二宮 愛莉

「女の子らしくない」「男の子なら普通は……」
知らず知らずのうちに誰かを傷付けていませんか。
無意識のまま自分を蔑ろにしていますか。

きっと「らしき」や「普通」という言葉を使った
ことがない人はいないでしょう。悪意を持って、わ
ざと相手を傷付けようと思って使っている人もいな
いでしょう。それでも、それらの言葉で傷付いてし
まう人がいるのをご存知ですか。そもそも「らしき」
「普通」とは何でしょうか。当たり前前のように使う
その言葉の、本当の意味を考えてみたことはありません
か。

私は、男の子らしい服装を好み、男の子らしい言
動をよくします。トランスジェンダーのかなと思
った人もいます。でも違います。私服ではス
カートを一着も持っていませんが、制服はスカート

です。進んで履きたいとは思いますが、絶対履き
たくない訳ではありません。一人称は、日常生活で
は、「俺」をよく使いますがこのように「私」を使
うのに違和感を感じません。これが、私です。これ
が、私の普通です。私はただ、ありのままの自分を
大切にしているだけです。

「普通」とは何でしょうか。自分の普通を自分で
決めるのが「普通」なのではないでしょうか。誰で
も、男の子らしい所も女の子らしい所もあるはずで
す。男の子らしい所も女の子らしい所もどちらもあ
るのが「普通」なのではありませんか。「らしき」
「普通」ではなく、大事なはその人自身、自分自
身だと思えます。普段使う言葉の本当の意味を、重
みをしっかり考えてみませんか。「らしき」「普通」
を一度取り払って、かけがえのないここにたった一
人しかいない「自分」を大切にしてみませんか。そ
うすればきっと、他の人の事を、大切な人の事を「ら

しき」や「普通」関係なく本当に大事にできるはず
です。

優秀賞

違いを受け入れる

第五中学校 三年 濱津 陽南

私は両親や祖父母から「女の子なんだから。」と言われたことはありません。兄や弟からも言われません。私も兄や弟に「男の子なんだから。」と言ったことはありません。それは違う人間なのだから意見の違いなどがあって当たり前だし、それぞれに得意な事や苦手な事があるのに性別だけで決めつけるのは、おかしいという日頃からの母の教訓があるからかもしれません。

我が家では、弟が率先して料理の手伝いをしていきます。理由を聞くと

「料理を作ったりするのが好きだから。」

と答えます。母が忙しい時は父も料理を作ります。定番の焼きそばが多いですが、母が作る焼きそばより美味しいので、私は父が作ってくれる焼きそばが大好きです。食器の後片付けも父の仕事です。平日

は仕事もあるので、あまり家事をしません、休みの時は父も率先してテキパキと家事をしています。できる事をできる人がするというのが我が家の日常です。なので、たまにテレビなどで昔は男性は家事などはせず、女性が全ての家事をしていたのを見たと驚いてしまいます。なぜ、みんなで協力できなかつたのかなと疑問に思ってしまう。

女性にしかできない事や女性が多い職業、男性しかできない事や男性が多い職業などがあるのも事実だと思います。私も女性の先生の方が色々相談しやすかったりもします。だからと言って、男性の先生が嫌なわけではありません。聞きたい事や相談の内容によって先生が変わるので、いろんな先生がいてくれる方がいいと思います。

男だからとか女だからという言葉は、自分自身の可能性を低くしてしまう呪いの言葉のようにも感じます。男性でも女性でも関係なく、自分自身がやりたい事やできる事が実現できるような社会になつた

らしいなと思います。そのために私自身も色々な経験をして、自分の可能性を信じていけたらいいなと思います。

母は、「社会に出ると、まだまだ女性だからと制限される事もある。」

と言います。それを聞くと少し不安になったりもします。性別だけではなく、一人一人違う人間なのでから違って当たり前。得意な事もあれば苦手な事もあるという事を理解してお互いに尊重できるようになって少しずつかもしれないけれど、社会が変わるのかもしれない。そして、そうなるように変えていきたいと思えます。

優秀賞

過去からの解放そして未来へ

第四中学校 三年 半沢 悠乃

親戚のおじさんが「うちの嫁は俺が羨しているからな」と堂々と言っていた。私はどういう意味かさっぱり分からなかった。母に聞くと、結婚して夫の家に入った奥さんに礼儀作法を教え込んだり、従わせたりするような意味かなと言っていた。私は奥さんの人権を尊重していないのではないかと思ったが、一昔前の日本では女性は結婚すると他家に入ることから夫の家庭の規範や礼儀作法を身につける必要があるとされていたらしい。前に読んだ小説にも似たようなことが書いてあった。「男は外へ働きに行き、女は家事・育児をするべし」というものだ。女性であるだけで、家事をこなし、何をするか予測不可能な子どもを育ててはいけないと言うのだ。男性も仕事を必ずしもしなくてはいけないと言うのだ。

これはどちらも自由に自分のしたいことができないということなのではないだろうか。

SDGsの目標五には「ジェンダー平等を実現しよう」というものがある。これは男性女性どちらも自由に平等になる社会を目指そうというものだ。今までの日本や世界では、やはり、男性の方が女性を言いなりにしている家庭が多かったように感じる。それにより女性に自由はなく、まったく平等とは言えなかった。しかし今では男性が家事をし女性が働きに行く家庭もあれば、共働きで家事を分担する家庭も多くなっている。少しずつ昔のジェンダーな考えをする人は減ってきているように感じる。その一方、私の親戚のおじさんのように昔の考えが残ってしまうことはしかたないことも言える。

私の両親は共働きで、お互いに分担して家事を行っていて、仕事に出ているときの家事は一緒に住んでいる祖母が行っている。全員で意見を言いあえる平等な関係の家族だと思っている。自分も家族を持

つようになっただら平等な関係の家族を作っていきたいと切実に思う。

しかし、平等というものは難しいものだ。何が平等で何が平等ではないのか、はっきり分かるものではないからだ。自分は平等だと思っても相手は思っていないケースもある。だから、しっかり自分も意見を言い、相手にも意見を言ってもらうことが必要だ。それをするには、お互い尊重し合い、思いやりを持つことが必要だと思う。例えば、夫婦で暮らしていく中で、相手が体調を崩してしまった時に、さりげなくカバーし合うことが重要だ。

そして、男女平等は夫婦間だけではない。日常で生活していく上でも男女共に思いやりを持つことは大切だと思う。誰かが困っていたら、誰でも助ける。

「女性」「男性」という性別にしばられた考えを意識的に世の中のみんなが変えてくれたら。さらに人として相手の喜ぶであろうことを考え行動すること

こそがジェンダー平等への近道なのではないだろうか。

男女共同参画都市宣言

(市制百周年記念)

美しい自然と確かな歴史、豊かな文化に恵まれた会津若松市の市民として、誇りと自信を持ち、男女の平等を基本理念に、「男女共同参画都市」を宣言します。

- 1 わたしたちは 性別にとらわれず、ひとりひとりの人権が尊重され、個性と能力が生かせる会津若松市をめざします。
- 1 わたしたちは お互いを認めあい支え合って、あらゆる分野に男女が共同で参画でき、いきいきと暮らせる会津若松市をめざします。
- 1 わたしたちは 共に手を取りあい、かけがえのない地球の環境を守り、平和で豊かな会津若松市をめざします。

2000年2月27日

会津若松市

市では、令和6年4月から令和11年3月を計画期間とする「第6次会津若松市男女共同参画推進プラン」を策定し、「性別にかかわらず、多様性を尊重し、一人ひとりがその個性や能力を十分に発揮することができるまち」を目指して、市民の皆さんや事業者の方々とともに取組を進めています。

会津若松市
UDキャラクター
ゆにばくん



発行 令和8年1月

会津若松市 市民部 市民協働課

〒965-8601 会津若松市東栄町3番46号

TEL 0242-39-1221 FAX 0242-39-1420

<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2019122600010/>



この作品集は市のホームページにも掲載しています。